

ひとを育てる活動

卒業おめでとう！

小学校 7 名、ハイスクール 6 名、カレッジ 6 名

私たちが昨年度 CMIP を通じて支援した奨学生は、小学生 41 名、ハイスクール生 32 名・カレッジ生 14 名、計 87 名です。教育支援会員約 90 名で支えました。精神的疾患で結局復学をあきらめたハイスクール生 1 名（注）を除いて 86 名が各学年を修了、または卒業しました。中途退学数ゼロは近年にない快挙です。

小学生に関しては、野のゆり会や給食支援会員に加えて、今年は NPO 法人「WE21 ジャパンさいわい」の助成で実現したおかずたっぷりの給食が功を奏したかもしれません。「給食」は子どもたちの「学校に行こう！」を後押ししたようです。



週 3 回の給食準備は、当番の母親たちには安価で栄養あるメニュー研修の絶好の機会です
(ラムアフス小学校)

卒業生 19 名には、今年もそれぞれの支援者のご協力で「祝卒業」のカードを贈りました。

卒業は新たな出発の時でもあります。前号でもおしらせのように、カレッジ卒業生 6 名のうち 5 人は教師を、1 名は会計士を目指して 9 月実施の国家試験に挑戦します。補習コース受講と受験経費について、あと少し皆様の応援をお願いします。



左：初等教育課程卒のマリベル
右：会計士目指すクリストファー

注：2 年生在学中に発病したエドナは 1 年余り奨学生特別医療支援枠で服薬治療を続けて、今年復学可能と聞いていましたがまた悪化したようです。エドウィン神父からは、ダバオの知人の施設に入りたいというメールが届きました。長い目で見守りたいと思います。

多くの奨学生を育てたノビシエート寮

今役割を終えて、改修計画

今月初め、CMIP 代表のエドウィン神父から「担当神父が 6 人に増えるので、ノビシエート寮を宿舎にさせてほしい」と HANDS の同意を求めるメールが届きました。

10 年前に助成を受けて建設を支援した寮は、男子棟、女子棟、食堂からなり、多い時はハイスクールとカレッジ生あわせて 40 人ほどいました。上級生が下級生の宿題を教え、週末はみんなでゲームに興じたりにぎやかでした。夕食後に英語の特訓クラスが開かれた時期もありました。

その後、ジェネラルサントス市公立ハイスクールの受け入れ枠が減ったため、ミアソン寮に全員が移り、カレッジ生は HANDS の資金事情で数が減りました。昨年のノビシエート寮生は、大学に寮がある MSU 以外のカレッジ学生 6 名のみで、広い寮内の掃除は大変そうでした。

担当神父の宿舎にとの申し入れの背景には、以上のような寮生減少があります。また、担当神父 2 名の増員は、奨学生モニターや水道事業担当として大活躍のビラーン人スタッフ・リコの突然の辞任があると思われます。3 人の子持ちとなったリコは生活のため、海外就労を決めて 12 月末に CMIP を離れました。

奨学生指導のほか、鉱山やプランテーション開発が進む中で住民の組織化など、CMIP は忙しくなっています。担当神父たちの活動拠点としてノビシエート寮活用に同意する旨返信しました。

なお、残るカレッジ奨学生用には同じ敷地内に小さめの宿舎を建てる予定と聞きました。

あしなが奨学生(ブラクール出身カレッジ生)現況

PFIP 経由で支援の 3 名のうち、3 年進級予定のジョベリンの結婚・中退報告がありました。HANDS 会員 6 名で支える今年のアしなが奨学生は、ジョセフ(新 3 年)とクリスティーナ(新 4 年)のほか、専門学校生 1 名が予定されています。又、この度解散を決めた「ファレル支援の会」渡辺代表から HANDS に委託された残金で、同じく PFIP の対象地区ファレル村出身の 1 名も支援の予定です。